

02

アセスメントの基本と実際の支援への活かし方

～行動の背景を探るポイントを中心に～

後編(事例)

アーチル発達障害基礎講座 第一部②

事例から考えてみましょう

- 次にあげる事例は架空事例です。
- アーチルの相談で出会う方のエピソードを参考に作成しました。
特定の個人の情報ではありません。

事例①

- 小学校3年生 相談主訴：かんしゃくが多い
- 朝すっきり起きられないことが多く、時々学校に遅刻する。
- 学校から帰宅後はゲーム中心。
- 3年生になってから家で宿題を促すとかんしゃくを起こすことが増えた。
- 宿題をするしないで母と揉めてしまい、大泣きすることがある。
- 本人は「算数が苦手」と言う。九九はところどころ忘れている。
- 友達とは仲良くできるが、間違いを指摘されるとイライラして大声を出してしまうことがある。
- 手伝いは好きで喜んで取り組む。

「かんしゃくを起こす」の背景を探ってみよう

かんしゃくを起こす

睡眠が足りず、
学校でエネルギーを
使い果たしている

宿題をしないことで
繰り返し怒られている

宿題の内容が
難しい

できない経験が多く
自信を失っている

支援方針の立て方①

- できないことをできるようにする、だけではなく、背景にある困りごとを解決するイメージで立てていく
- 本人の「強み」を生かす：得意なこと、今できていることに注目する

睡眠が足りていない



メディアの視聴時間の見直し
睡眠時間の確保

学習の基礎が
できていない



本人がつまずいている箇所に戻って
復習の機会を作る

指摘されることが多い



本人が活躍できる
活動を作る

手伝いが
好き

自信を失っている



本人が努力している場面で
ほめることを増やす

友達と仲良く
できる

その後・・・

- 改めて、メディアの視聴時間を見直したところ、両親が思っている以上にゲームをしていて夜更かしをしていたことが判明。家庭でのメディアのルール作りをし、寝る時間を早めに設定するようにした。学校に遅刻することが減り、日中の集中もよくなった。
- 家庭で少しずつ九九の復習を始め、担任の先生と相談し、宿題で九九が必要な時は九九表を見て良いことになった。
- 学校で進んで手伝いをしたり、友達にやさしくしたりといった場面で担任の先生がよく褒めてくれるようになった。
- 家でも手伝いをしてくれた時にしっかりほめるようにした。

→宿題が難しい時や量が多い時に多少イライラする様子はあるが、大きなかんしゃくの回数は減っていった

学校でも家でも、進んでお手伝いをすることが増えた

事例②

- 小学校2年生 相談主訴：教室に入れない
- 記憶力はとても良く、まじめな性格で、思った通りにきちんとやりたい。
- 発表の場面では小声。友達の輪に自分から入れない。
- 字は丁寧に書けるが、本人が納得しないと繰り返し書き直す。
- 小学校1年生の後半から教室にいられないことが増え、廊下や別室で過ごすことが増えた。別室では穏やかで、自分のペースで漢字ドリルに取り組む。
- 先生から教室の様子を見に行こうと誘われると応じるが、教室の扉の前で固まり、教室の中には入れない。
- 両親は教室で勉強してほしいとの思いがあり、家では本人に頑張るように励ましている。本人も「明日は頑張る」と答えるが、教室に入れないが続いている。

「教室に入れない」背景を探ってみよう

教室に入れない

授業中の発表が
負担

板書するなど書く作業が
周りに追いつかない

本当は嫌でも
嫌と言えない
受身的

教室に入らなければ
いけないことはわかって
いるが、入ろうとすると
とても不安になる

支援方針の立て方②

- 本人の事情・特性を整理し理解する
- 本人にとって「ちょうどいい」目標を立てる

きちんとしたい思いが強い
こだわりが強い

「教室には入るべき」
「でも不安でできない」
葛藤している状態

嫌と言えない
自分から関われない
自分の考えを話せない

本人のペースで課題ができる
環境を整える

本人ができそうなことを目標にし
達成感を持たせる

具体的な場面で適切な気持ちの伝え方や
行動の仕方を教える

別室では
穏やか

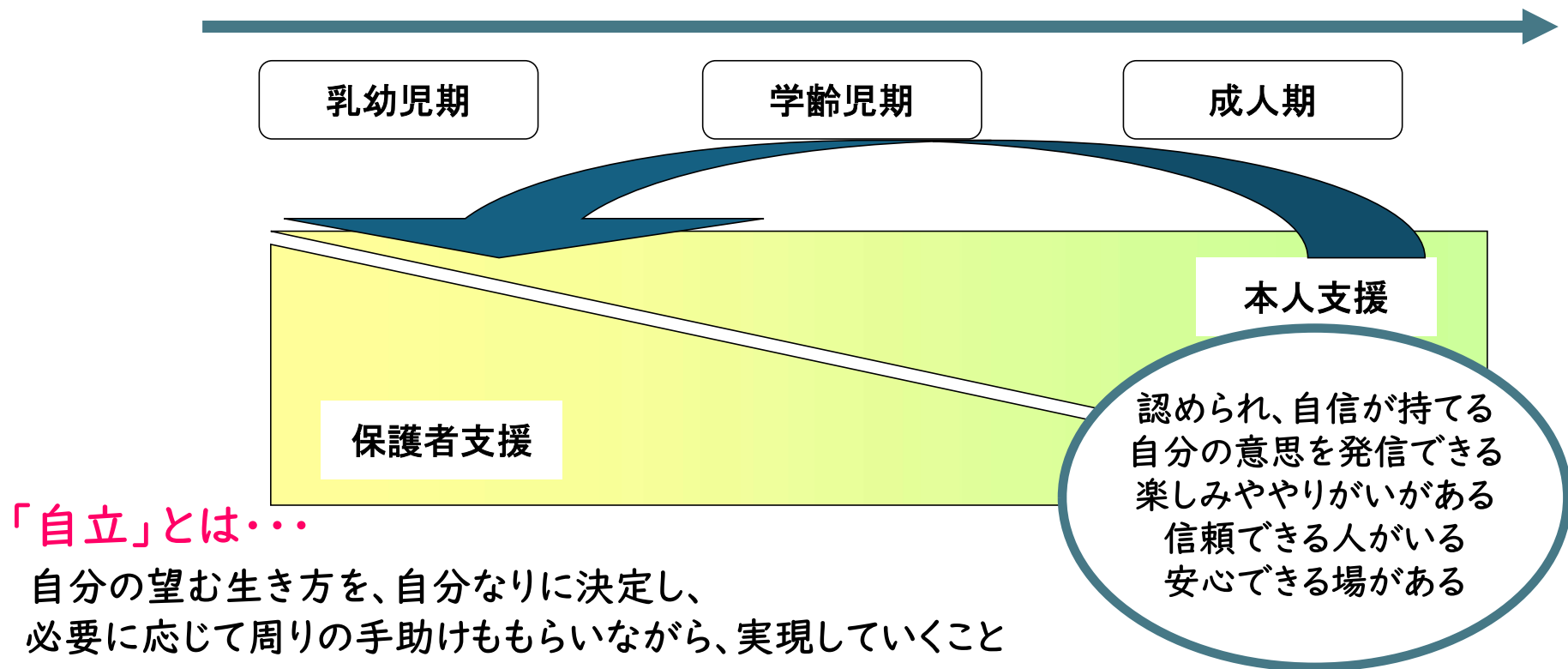
その後…

- 別室で、本人と別室の先生が今日することを決め、本人ペースで学習に取り組むようになった。
- 解いたプリントを担当の先生に見てもらいに行くことを別室の先生から提案される。担任の先生から褒められるとうれしそうな様子が見られるようになった。始めは別室の先生から促されて教室に向かっていたが、徐々に、自分からプリントを届けに行くようになった。
- 別室で先生と一緒にいれば、他児と同じ遊びをするようになった。
- 両親は別室での本人の過ごしについて報告を受ける中で、少しずつ本人の成長を感じるようになった。

→本人が安心できる場で、自信を持って取り組めることが増えていった。

将来を見据えて ～支援の基本的な考え方～

成人期の「自立」と「社会参加」が目標



ご清聴ありがとうございました



第一部「アセスメントの基本と実際の支援への活かし方 ～行動の背景を探るポイントを中心に～」

① 前編（講話）

★ ② 後編（事例）

第二部「アーチルの役割機能と関係機関との連携による地域支援」

① 発達相談支援センター「アーチル」とは

② アーチル相談の現状と課題について

③ 地域での発達支援充実に向けた関係機関との連携

＼他の動画もご覧ください！／



アンケート

ご協力お願いいたします

今後の参考にさせていただきますので、アンケートのご協力をお願いします。
皆様のご意見をお待ちしております。

期間: 令和8年12月31日(木)まで

方法: 右記二次元コード又は概要欄URLより
ご回答ください。

